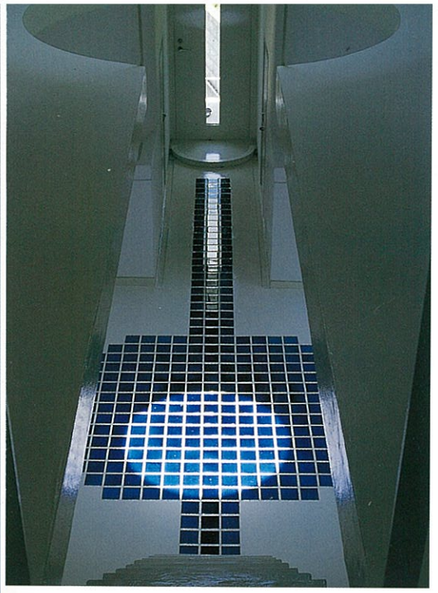
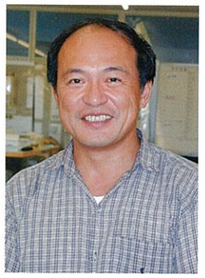


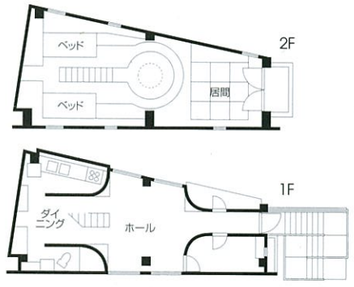
天窓からは、昼は日の光、夜は月の光が床に映って、美しく幻想的な雰囲気を醸し出す



設計＝福村俊治

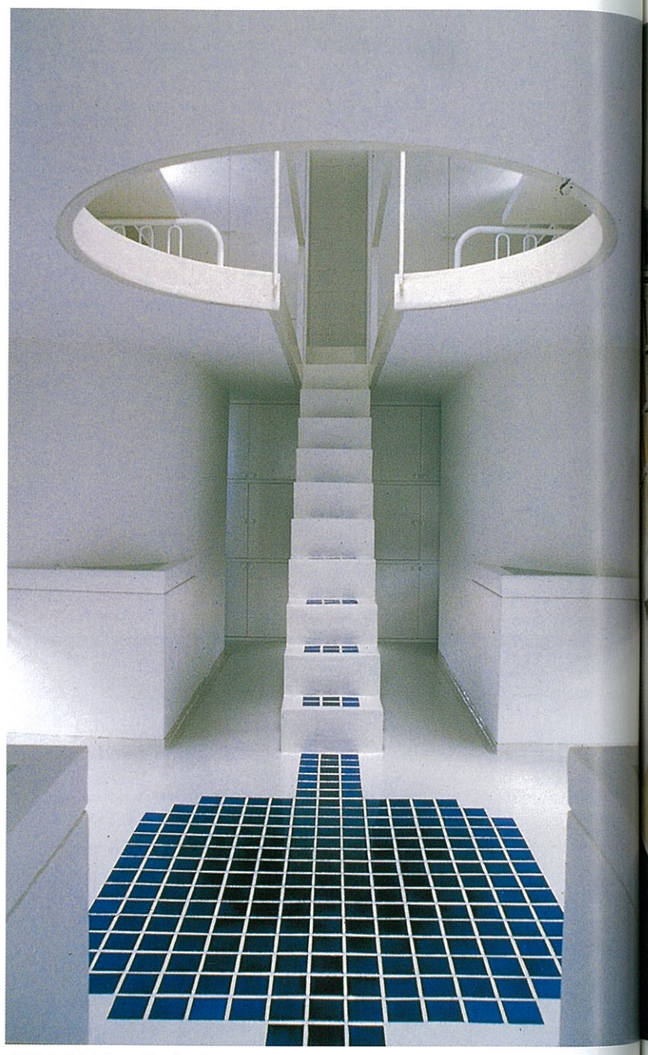
ふくむらしゅんじ　1953年滋賀県生まれ。関西大学建築学科大学院終了後、原広司+アトリエファ建築研究所に勤務。1990年空間計画VOYAGER、1997年team DREAM設立。沖縄県平和資料館、沖縄県総合福祉センター、那覇市役所銘苅庁舎の他、小住宅などを手がける。http://www.dream-archi.com

右：半戸外の空間を持った個性的な住宅　左：コンクリートの近代的な母屋に、遊び心のある赤瓦の離れを組み合わせた住宅



005 Fukumura tei

所在地：浦添市仲間
設計：福村俊治
☎098-866-5038（team DREAM）

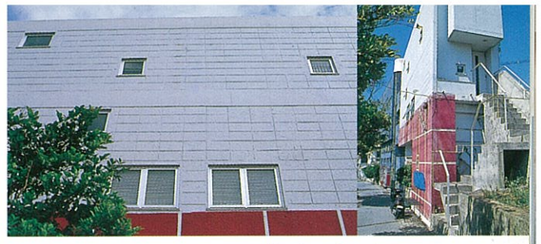


玄関から見た内部。下階の床と階段には、沖縄の海を思わせる青いタイルが敷かれていて、白い内装のアクセントになっている。ひんやりと涼しげな印象

と設計者の福村俊治さんは言う。わずか15坪の敷地に建つ総工費550万円の2層の住宅は、その狭さを逆手に取って、ちょっと昔のSF映画に出てくる宇宙ステーションのような印象の、夢のある空間になった。低予算に抑えるために内外装を省き、外装はコンクリートブロックにペンキ塗り、内装はモルタルにペンキ塗り。床は汚れたら水洗いができる。ベッド以外を造りつけにして、すっきりとした暮らしを可能にした。

仕事から疲れて帰ってくる場だからこそ、夢のような楽しい家にしたかったという設計者の思いが込められた、沖縄ならではの個性溢れる住宅だ。

窓の少ない分、上階には天窓があり、吹き抜けを通じて十分な光が下の階にも届く。屋上に土を載せて照り返しを防ぎ、建物を冷やす工夫がされている



右：一番幅の狭い部分は180cmしかない建物　左：西側の壁面は、西日を避けるために窓の数と大きさを必要最低限に抑えた。白いペンキ塗りの外観は、かえって新鮮に見える

浦添市 ● 005
沖縄スタイル

発想の転換が生んだ重力の感じられない宇宙スペースのような暮らしの場

福村俊治 Shunji Fukumura

写真＝福村俊治 Photos：Shunji Fukumura
文＝奈須川さとこ Text：Satoko Nasukawa

家はそこに住む人の暮らしを包む箱であり、個性の表れでもある。とすれば、「こうでなければいけない」という制約は本来ないはずだ。しかし実際には、気候、土地の広さや傾斜など、そして予算とさまざまな条件に縛られる。理想を制限するそれらの条件を発想の転換で利点に変えてしまったのが、この家だ。

沖縄で家を造る時、まず考えられるのは、高温多湿の気候と台風だ。こうした厳しい自然が課すさまざまな条件との戦いから沖縄の建築は生まれてきた。一般的な木造住宅では台風に太刀打ちできないから、コンクリートを使う。しかし、コンクリートには構造上の自由度がある